

平成 22 年 7 月 28 日

各 位

ふようせい いおう
丸亀工場における「不溶性硫黄」設備の増強について

四国化成工業(株)〔本社：香川県丸亀市、会長・C.E.O.：山下矩仁彦〕は、丸亀工場（丸亀市港町）でラジアルタイヤの原料である不溶性硫黄の生産設備を増設し、2012年夏頃までに能力を現在の約1.5倍に増強します。新興国での需要増を見込み相次いで増設を計画している各タイヤメーカーに向けた供給能力を増強するものです。

不溶性硫黄はゴム分子を結合させる加硫剤^{*1}として使われる高分子の硫黄で、現在タイヤの主流となっているラジアルタイヤ^{*2}の必須原料です。

タイヤの需要は世界同時不況の影響で一時的に落ち込みましたが、アジアを中心とする新興国で自動車の本格的な普及期に入ったこともあり、今後年率5%程度の成長が予測されています。旺盛な需要を見込み、タイヤメーカー各社は中国やタイ、及びインドなどに相次いで新工場建設や増設の計画を打ち出していますが、当社は世界第2位の不溶性硫黄メーカーとして供給責任を果たしていくために、今回の増強に踏み切るものです。

2010年10月から建設工事に取り掛かり、2012年3月末までに完成、試運転を経て同年7月頃から本格的な操業に入る予定です。新規の生産ラインのほか、隣接する取得済み用地に安定供給のための製品倉庫も建設する予定です、投資総額は約40億円を予定しています。

不溶性硫黄は、製造工程で使われる二硫化炭素^{*3}の取り扱いに高度な技術が必要なうえ、製品自体にも極めて高い品質が求められることから、世界でも主要メーカーは数社と限られており、当社製品の販売先も既に海外比率の方が高くなっています。今回の増産分については、既存の大手タイヤメーカーをはじめ、今後需要増加が見込まれるアジア地域の新興タイヤメーカーなどにも拡販をしていく予定です。

以 上

このリリースに関するお問い合わせは
四国化成工業(株) 経営企画室まで
TEL. 0877-21-4119

(参考資料)

※1 加硫剤

自動車用タイヤの製造過程では原料の混練り、成形の後、ゴム分子を結合するために架橋剤を用いる。架橋剤には硫黄が使用されるため、一般には加硫剤と呼ばれる。この加硫工程を経ることで、ゴム本来の性質を持つようになる。

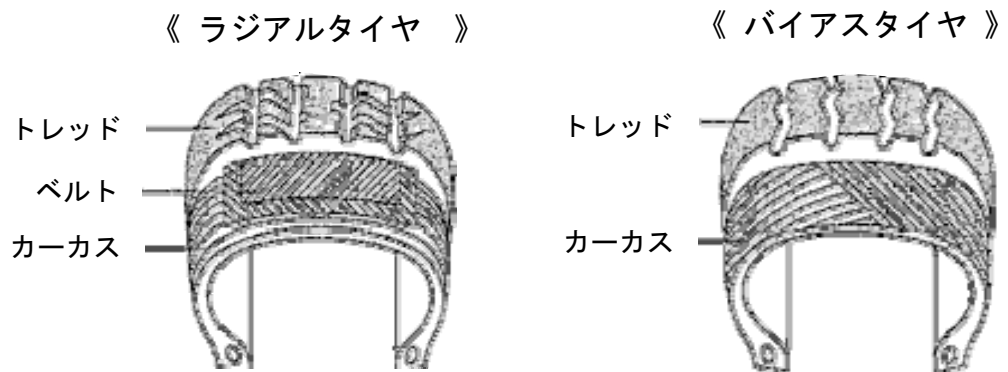
かつては加硫剤として価格が低廉な可溶性の硫黄が主流だったが、ゴムと硫黄を混合した後の温度低下に伴う溶解度の低下により、ゴム表面に硫黄が析出する現象（ブルーミング）を起こす欠点があることから、今日では不溶性硫黄の使用が一般化している。

※2 ラジアルタイヤ

タイヤの骨組みである「カーカス」を構成するコードを、トレッドの中心線に対して直角（タイヤの中心線から見ると放射状＝ラジアル）に配列したタイヤ。これに対して従来のバイアスタイヤはコードをトレッドの中心線に対して斜め（＝バイアス）に何枚も重ねている。

バイアスタイヤではこのカーカスが動く際に生じる熱のためタイヤの劣化を早めていたのに対し、ラジアルタイヤは転がり抵抗、熱の発生が少なく、耐摩耗性にも優れる。縦横方向ともにグリップ力が向上し、高速走行に適している。現在、日本を始めとする先進国では既にほとんどの自動車用タイヤがラジアル化されており、新興国でも高速道路の整備とともにタイヤのラジアル化が進んでいる。

乗用車用タイヤのほか、バス・トラックから大型建設機械、航空機にいたるまで各種のタイヤがラジアルタイヤの範疇である。



※3 二硫化炭素

代表的な炭素の硫化物。化学記号 CS_2

無色の液体で、揮発性が高く極めて引火しやすい。主に化学繊維ビスコースレーヨンやセロハンの製造に用いられるほか、医農薬原料としても使われる。

当社が1947年に創業した際の祖業製品でもある。